

## 第 105 回番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 31 年 2 月 26 日 (火)
- 2 開催場所 割烹さわ
- 3 出席について
  - 委員総数 14 人
  - 出席委員数 8 人
  - 出席委員の氏名
    - 清水一希 / 今井陽子 / 風間隆之 / 高井俊一郎
    - 吉井照雄 / 渡木秀徳 / 吉村巳之 / 風間まり子
  - ラジオ高崎 3 人
    - 編成局長 田野内明美
    - 放送部長 吉良武夫
    - 企画課長 関口高史
- 4 議題 ラジオ高崎の番組内容について
  - 「おらほうの公民館」について
  - 番組全般について
  - その他
- 5 議事の概要 (別紙)
- 6 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日
  - ・書面 ラジオ高崎に備え置き
  - ・ホームページ ラジオ高崎ホームページ内  
<http://www.takasaki.fm>
  - ・ラジオ高崎放送 平成 31 年 3 月 17 日(日)  
午前 6 時 55 分～6 時 59 分
- 7 その他の参考事項

## (別紙) 議事の概要

- ・ 田野内編成局長から挨拶。
- ・ 事務局から審議対象番組（コーナー）の説明。  
「おらほうの公民館」では、高崎市内の公民館で開催されているサークルや諸団体の活動取材して紹介している。放送日時は、毎週日曜日のワイド番組「おはようサンデー」内の午前 9:10 から 15 分程度。取材担当は篠原悠介で、高崎市内の公民館に伺って収録した内容を、報告形式でもう一人の番組 MC 大江響子と話を進めながら伝えるコーナー。
- ・ OA 素材の抜粋の試聴（放送済み素材の抜粋を 2 回分）。  
「おらほうの公民館」2019 年 1 月 27 日 OA「寺尾公民館 少年少女合唱 バンビ」  
「おらほうの公民館」2019 年 2 月 10 日 OA「西部公民館 手芸サークル ココア」
- ・ 番組（コーナー）説明と OA 素材試聴のあと、他の既存番組も含めて広く意見を求めた。

## 委員各位の意見

○「おらほうの公民館」は、「おらほう」＝「自分の地域のほう」という方言が番組タイトルにもなっているので、ご年配の方を紹介しているのかと思ったらお子さんや若いお母さんの声もあって出演者の対象の幅が広くとてもよい。HP や SNS 等で双方向でやり取りをして、情報を発信したり出演団体の募集をしたりする方法もあるのではないか。

(事務局)「おらほうの公民館」や「防災情報番組」については、再放送の他、ラジオ高崎 HP にて過去の放送内容を聞くことの出来る仕組みを検討している。

○開局当初のラジオ高崎の番組のようで懐かしい感じがした。「おらほうの公民館」はまさに「市民参加型」で、この部分が大切。ラジオ高崎らしさはここにある。行政との連携を更に密にして多くの市民の声が出る番組作りをして欲しい。一日聞いていると知っている人が数人出てくる放送が望ましい。

○「おらほうの公民館」は着眼点がよいと思う。ラジオ高崎の原点であるこういった番組を更に増やして欲しい。広報高崎との連携で、一度広報に取り上げられた団体を

再度ラジオで紹介することも可能。出演団体の拡充など更なる番組改善が見込める。  
また、放送やHPなど様々なチャンネルで、紹介団体の予告を積極的にすべき。

○「おらほうの公民館」は地域性がよく分かり、サークルや団体等の活動を発展させることのできる企画であると思う。手芸サークルの紹介の中で「かごを作っています」とあったが、せっかくよい内容なので頭の中で実物を思い描けるような細かい表現（色・大きさ・形等）をすると更に伝わる。

○「おらほうの公民館」のように、知っている人がたくさん出る番組作りに努めて欲しい。高崎出身や、もっと広い範囲で群馬県出身で、目立たないけれど各界で地道な活動を続けている人を紹介する企画も面白いと思う。

○今まであまり注目されなかった「高崎市民のサークル活動」に光があたっている感じがする。これぞ地元のラジオ局の果たす役割ではないか。これからも、様々な市民団体の活動を応援して多くの市民の声を届けるような番組作りを続けて欲しい。

○公民館は小学生のころ親も含めてよく利用していたが、中学生以降は公民館に行くことがほとんどなくなってしまった。多くの市民に公民館等の施設を気軽に利用してもらうように、「公民館の利用方法」自体をラジオで伝えるのもよい。公民館の役割が再構築され、災害のときにすぐに足が向くようになればよい。

○公民館を利用することはあるが、高崎市内各地の公民館で開催されているサークル活動の詳細を知ることが出来て大変勉強になる。今回、OA素材で子どもの声が紹介されており、また、他の番組でも幼児や小学生は出ているが中高生の出演機会が少ないのではないか。

（事務局）中高生の出演については、部活動紹介等の企画も考えたい。

田野内編成局長より（新年度番組編成の概要も含めて）

○新年度は、「おらほうの公民館」のように多くの高崎市民の声を届ける番組作りに、更に力を入れて取り組む。開局20年を控えた一昨年度に大きくリニューアルした夕方ワイド番組「エアープレイス」は、高崎や群馬にゆかりのあるゲストパーソナリティーに出演してもらう形が支持されており続けていきたい。一方で、番組制作側でも確実にリスナーが増えていると実感出来ている今こそ「地域密着」や「防災情

報の迅速伝達」などコミュニティ放送の果たす役割を再確認する方針である。開局時はインターネットが普及しておらず、放送は取材や図書館等での調査をもとに原稿を手書きして臨んでいた。もう一度原点回帰し、取材をもとに「人」や「地域情報」を取り上げる番組を増やしていく。また、エアースペースの当日再放送や、既存の地域情報番組の再放送回数の増加など、高崎市民がラジオ高崎の放送を通して高崎の「情報」や「人」に接することの出来る機会を大幅に増やす予定である。

以上